

## CMA+PBダブル資格者に聞く、 プライベートバンカー資格

超高齢化社会に突入した日本では、相続や事業承継といった課題に直面する富裕層・企業オーナーも多く、このような課題に取り組むプライベートバンカーの存在は、近年欠かせないものとなっています。

特に事業承継の課題への支援は、税務・法務よりも、証券アナリストの知識や感覚が最も生きる分野と言えるでしょう。事業全体の流れをつかみ、その分析やビジョンの立て方、差別化の方法、上場企業の財務諸表からリスクを読み取る識別眼、アナリストレポートで駆使される会社の意図を投資家に伝えるための表現方法など、証券アナリスト的観点や経験が、企業オーナーへのコンサルティングには欠かせません。

CMAでありかつPB資格を取得された会員の皆様にご登場いただき、受験の経緯やダブル資格の活用、また受験した感想等について、お話を伺います。

### 1. CMA・PB受験のきっかけ

#### 金融法人の顧客にはCMAが多かった

現在の証券会社に勤務後、40代に入る手前で大阪金融法人の担当となりました。先方の担当者はCMAが多く、CMAの知識は証券会社だけのものと思っていたのが、もはや金融マンの常識となってきたのを感じました。

またその部署では、IPOを目論む野心的な企業家と接触する機会も多く、将来上場企業として生きていく上で株主やアナリストなど外部からどう見られるのか、どう行動していけばよいのかといった、上場企業となった後を見越しての行動指針となるアドバイスについても、求められる立場となっていました。こうした中で、CMA資格を取得しようとチャレンジ、42歳で取得しました。



東海東京証券株式会社  
RM部マネージャー  
野々垣 均 氏

#### 法人から個人担当に、CFP、シニア・プライベートバンカー資格を取得

40代後半に、会社が推奨するCFPを取得後、法人関連部署から、地主や高齢の資産家へのアドバイス業務を担当する部署に異動となりました。その後2013年の組織改革で、富裕層関連が統合され、ウェルスマネジメント本部が新設され、グループとして本格的に富裕層ビジネスをスタートしました。

ちょうど同じ時期に、日本証券アナリスト協会でプライベートバンカー資格制度が開始され、ウェルスマネジメント本部の社員に受験が勧奨されたので、CMAである自分はシニアPBから受験、2015年3月に筆記試験をクリアし、シニアPB資格者に認定されました。

---

## 2. CMAであり、シニアPBである強み

### 顧客が持ちうる選択肢の全てについてアドバイスできる強み

ここ東海地区は銀行融資なら“名古屋金利”と揶揄されるように金融機関同士の競争が厳しく、競争を勝ち抜くためには他の金融機関の人間と自分は何が差別化できるかが、重要な鍵となります。

企業オーナーはまず自分の事業を土台にものを考えます。顧客の事業の分析ができなければ、オーナーとの実のある会話は成り立ちません。CMAでありかつPB資格者である自分は、アナリスト資格取得で身に付いた自らの分析に基づき、顧客企業を将来の発展の道へと導く役割に加えて、シニアPBとしてオーナー個人やファミリーの相続・事業承継についても、一緒にアドバイスを行っています。

高齢化に伴い、非上場オーナーにとっては円滑な事業承継が目下の最大の課題となっていますが、そのソリューションは以下四つに集約されると考えます。一つ目はオーナーの息子や娘などの親族内承継、二つ目は従業員等の親族外承継、三つ目はM&Aなど外部に売却するケース、四つ目はIPOです。これら全部の選択肢に関して、事業の将来性も見据えながら、税理士など外部専門家も活用しタックスマネジメントも含めたアドバイスを行うことができるのが、自分の強みとなっています。

当社では昨年から法人個人一体営業を推進しており、法人部門・個人部門の連携により、顧客へ総合的な金融サービスの提供を目指しております。また、特に法人顧客の潜在ニーズ掘り起しのために私の所属するRM部があり、顧客の持つニーズ顕在化のため日々コンタクトに努めております。

## 3. CMAはプライベートバンカー知識でさらに磐石なキャリアに

### “日本にはPBは浸透しない”は言い訳に過ぎない

富裕層ファミリーをまるごとケアできるという、プライベートバンカーの役割やその面白さは、まだ日本では十分に理解されていないと感じます。“日本には富裕層が少ないから、富裕層ビジネスは成り立たない”という意見もあるようですが、言い訳に聞こえます。日本でも5億円を超える資産保有者の数は決して少なくありません。彼らのニーズ全部をカバーでき、満足いただけるようなスキルが不足しているに過ぎないのではないのでしょうか。

CMAの方でしたら事業や市場を分析できるという利点を生かして、さらにタックスマネジメントなどプライベートバンカー的知識を身に付ければ、今後のキャリア展開はさらに広がると思います。合格するか否かは別として、シニアPBの受験勉強自体はかなり有意義だと感じました。

日本でも、プライベートバンカーという職業の素晴らしさが認知され、目指す人がもっと増えることを願っています。